

## 【7月度「二水会」開催のお知らせ】

○日 時： 7月10日（水） 12時00分～

○会 場： 北大会館（大阪市北区梅田1-2-2-200 大阪駅前第二ビル2階）  
06-6343-3736

○テーマ： 「教員南極派遣プログラム」の参加から「教育」への展開」

○講 師： 森田 好博氏（S59 水産）

講師の森田好博氏は、奈良県立平城高等学校の教師をしておられます。

—学校教育や社会教育に「南極での体験」をどう生かすのか—

私は第51次南極地域観測隊より始まった第1回の教員南極派遣プログラムで派遣していただいた理科担当教諭であります。なぜ南極に行きたかったのか。

皆さん同様、自分の目で南極大陸を見たい。観測の現場を知りたい。そして教材にしてみたいと思ったことでしょうか。大学の自治寮である恵迪寮生の時代に大雪山など北海道の山々を友人たちと登り、知床の近くの海や湖沼で釣りを楽しんだり、植村直己氏の「青春を山に賭けて」やソローの「森の生活」を幾度となく読み、新渡戸稲造が設立し、学生の奉仕活動に支えられて50年続いた貧しい子弟のための学校「札幌遠友夜学校」の存在や歴史に触れたことが大いに影響していると思います。

大学卒業後は故郷の奈良県に戻り、高校で理科を担当する教職に就いてからは山岳部や科学技術部の顧問として北アルプスの山々やロボット研究部の立ち上げあるいは当時の勤務校で母校でもあった奈良高校にてスーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）の研究開発担当者として多くの科学コンテストに生徒をチャレンジさせていました。

その中で生徒を送り出す身である自分も理科の教員として何かに挑戦してみたいという気持ちが沸々とわき上がってきたことです。はなはだ僭越ではございますが理科の一教員として参加させていただいた前後のことも含め現在のコロナ禍の状況下での教育への取組まで時系列に少し紹介させていただきます。

○参加費： **2000円** 弁当を用意いたします。

参加ご希望の方は下記項目を書いて、メールかファックスで北大会館に**7月6日**までにご返信願います。

1年以内に参加なさったことがある方は、お名前のみで結構です（zoom参加は前日まで）。

①参加方法 現地参加 or zoom参加

②氏名

③卒年

④学部

⑤学科

⑥連絡先

※zoom参加（無料）の方も必ずお申し込みをお願いいたします。

申し込み受付後、アクセス先をお伝えします。

北大会館メールアドレス： [elmkansai@yahoo.co.jp](mailto:elmkansai@yahoo.co.jp)

ファックス : 06-6343-3736

以 上